

ハンガリーのお笑い芸人 ナジ・バンドー・アンドラーシュ 3

～「コツカ通り十三番地—砦ゴキブリ七十七」～

飯田 縁

前回に引き続きナジ・バンドーのネタ紹介、今回は八十年代の傑作「コツカ通り」シリーズ。コツカ通りというのは、ドナウ川東岸のペスト側、都心（繁華街は完全にドナウ沿いにある）から少し東側に離れた十区（別名ケーバーニャ）にある。ここは巨大な団地区域があって、いわばブダペスト市民のベッドタウン、ナジ・バンドーの作品はここで暮らす団地の住民たちの生活を描いている。

今回とりあげた「コツカ通り十三番地」は、内容的には前回の「コツカ通りの雨漏り」に先行する作品なのだが、どっちが先に舞台にかかったのかは不明。日本では住所を表記するのに、大抵は道路で区切られた一区画内にある家に番号をふっていき、大抵はスタート地点の家の隣までもどってくる方式だが、ヨーロッパの町だと、どの通りにも名前がついていて、その通りの端から端まで順に番号をふっていく。（だから道と道が交差する街角にある建物には大抵、その通りの名前を示す金属の表札がかかっている）日本の場合、同じ地名の地区の1区に続く2区めが道路をわたったすぐお隣にあるとは限らないことが問題で、ポンと飛び地になってたりする。外国から来た人たちにはわかりにくいと不評である。コツカとはハンガリー語で真四角とかサイコロの意味なのだが、この通りの場合は「真四角」の方らしい。ネットでコツカ通りの位置を調べていたら、こういう詩を見つけたのだ。～コツカ通り、この通り、コツカ通りは、四角い家々が並んでいる、真四角な窓、真四角なドア、ここでは四角であることはこんなにもすばらしいことなのだ！～

ネットの「ユー・チューブ」というサイトでは、ナジ・バンドーのこのネタの上演が見られるので、訳注とともに客席の反応についても文中に実況してみた。巻末注に入れるかは翻訳者が迷うところなのだが（明らかに流れをそいでしまうのだが、意味が通じなくては話がすすまないのも事実、活字上のシットコム・スタイルである。）さて始まり！

コツカ通り十三番地一砦ゴキブリ七十七

この新聞どもときたら・・・わけのわからんことを書いてやがる！
ここは人は孤独で・・・おまけに孤立してるだって！
さてさてそりゃあ違うね！
このコツカ通りには孤独も孤立もありません！ここでは僕らは煮て食うのも
焼いて食うのも一人じゃないんだ！
僕がフレンチトーストを作ると、お隣さんが舌なめずりする！
トーストでもそう！
なんせここに越してきた人は、ずっとろくに食べてないんだから！
ダイエットしよう！
そう決心してたのさ！！・・・(お宅もそう？)
僕が孤立してたのはどこだったか、ご存知？
長年住んでた下宿さ。
はいはい・・・そこでは僕一人じゃなかったことはわかってますよ。
女房も一緒でした！
なんつー場所だったか！・・・お笑いぐさ、もいいとこさ。
きれいで、大きな、広々とした・・・(客席から笑い声) キッチン付ワンルー
ムの住まいでした！
ルームはまるでキッチンのように！
屋根裏部屋式のドアがついてた、家主のおかみさんはいつも言ってたよ。
「そっと閉めるのよ、枠から落ちてしまうから」
どこにもカバーがかけてあった。
ただ椅子とクッションにだけはかかってなかったね。
ベッドはあったよ・・・わら布団も・・・中にノミがいたっけ
家主のおかみさんが自発的献血提供者だった・・・(客席の笑い声に対して「あ
の人のこと知ってるの？」)
でもここに越してきたとき、全てが変わった。
僕は「走ろう！築こう！増産しよう！」運動に参加したのさ
それ以来朝は走り、日中は築き、そして夜には増産している
三人のかわいい子供がいるよ・・・それからブスが二人

家族はかくの通り・・・家族計画を作ったのはツェイゼルさ(訳注1 ツェイゼル・エンドレ、1935～、遺

伝学者で国立衛生研究所の遺伝及び先天性異常課に勤務、WHOのハンガリー代表として、産児制限等のアドバイザーの役割を果たした)

ただ僕はとにかく兄貴が気の毒でね。兄貴には今も住まいがないのさ。

それでも、そのせいで兄貴にとってはことが改善しそうだよ

今回の新たな住居規定が出来たからね。

これが今までの矛盾点を改善してくれるだろうからね。

だから云うんじゃないけど、僕は今までどんなことでも思い切って衝突いたことなんかないんだ！

まあ想像してみてくださいよ、今後その点が改善されると・・・。

政府は、これまでは住まいにありつく機会が平等じゃなかった決定しました。

つまり兄貴にとっても政府にとっても。

この住居規定では、住まいをあきらめた人には、支払った手付金の3～4倍の払い戻しを受ける機会が与えられる。

そんなら兄貴は硬貨一袋送ってもらえるかもしれない、だって兄貴は昨日ちょうど、住まいのことは完全にあきらめたと言っていたから。

孤独と孤立だって！・・・まったくもう！

僕はどの階のほとんど誰のことも知ってるよ！

ここには右からエルドグ一家がすんでいる！

僕らは長いことエルドグが女房をぶん殴るのに耳をすましたものさ、でもその女房に自家営業の歯医者が入れ歯を作ってから(訳注2 当時はもちろん全ての職業は国营、自家営業の仕事はすごく料金が高かった) というもの、やつも口を殴るのはしなくなったよ、なんせ女房の口の中にはジゴロ一人分の値段がかかったからね。

エルドグ夫人ご本人はといえば・・・披露宴でまわされる杯そのもの。

口から口へと！

他の女性たちの行状だって僕は知ってるよ。

家に「よその奥さんについてよく知ってるのは誰か」運動を導入したの僕だもの！(訳注3 ハンガリーの人気長寿TV番組「出来るやつは誰だ？」のもじり、聴衆でうまった客席の前にステージで音楽やダンス、マジック、物まね等の様々なジャンルで参加者が一位の座を競うコンクール・スタイルの番組で、入賞者リストにはその後のハンガリーの芸能界のそうそうたる顔ぶれが名前をつらねている)

以来うちの生活は活気ありまっせ！

僕はもう、若い女性たちのガス管を使ったモールス信号がどんな風に使われているか、発見したよ。

トンカチ！・・・あるいは金曜日に焼かれたパン(訳注4 土、日曜はパン工場はお休みなので、月曜までは新しいパンは入手できない)

し、日本の柔らかいパンと違ってフランスパンのように固いパンが多い) でガス管をたたくのさ！ガス管を一回たたくのは・・・コーヒーが出来てる、女友達同士で飲みに来てOK・・・

二回たたくのは、ラムは彼女のところにあるから、持参するには及ばないと知らせてる。

三回たたくのは、ボーイフレンドが出来てるので、誰も邪魔しないで！

そして三十～四十回強くたたくのが聞こえれば、亭主も家に帰ってきたんだと、わかるのさ！

うちの上には男やもめのもと一流スポーツ選手が住んでてね・・・

やつのかみさんは生きてる間、三人の野郎と浮気したのさ！

この腰抜け野郎はしょっちゅう「女房に男が三人いたってどうってことないね、結局私は最下位じゃなくて、上位四人の中に入っているんだから！」と、繰り返すだけだったよ。

勝つことではなく、参加することに意義があったのさ！

わかったでしょ！・・・ほらここにあるのは孤立じゃなくて親密さなのさ！

植木屋のように！・・・草木とも寝る親密どき・・・(ひょっとしてご職業はそれ？)

一人が温かいベッドから出て行くと、他のが入ってくるのさ！

うちの前には子供の運動場もあるよ・・・

どの子がどこの家の子なのか、しょっちゅうわからなくなるんだけど！（訳注5 正確に訳すと、「どの子の父親が誰なのか、しょっちゅうわからなくなるんだけど！」）

もしわかっていれば、母親に言ってやるんだけどね！

なんたるガキども！

ついこの間僕はこの場所で頬杖をついてた・・・下のほうで子供が一人何か吸い込んでるのが聞こえたのさ・・・

僕が「僕、何を吸ってるんだい？」と言うと・・・

「セメンダインだよ」と言うのさ・・・

まったくもう！・・・二十世紀の子供たちだろう？

やつらはしかたなくチューブ入り宇宙食を受け入れたというわけさ。

僕らがあれくらいのときはそんなことしなかった！

だろう！・・・僕らは喜んでコムソールに行ったものさ！（ネットの「ユー・チューブ」でこのネタの上演を見ていると、ナジ・バンドーはここで止めて、聴衆席を意味ありげに見回し、笑い声があがる。社会生活における建前と本音

の使い分けは、いずこも同じ、というわけか?)

最初は僕らだって、今の連中と同じくらい若いコムソール団員だったんだ・・・
僕らこそ偉大なる時代のコムソールの証人なのさ!

それに僕らは自分の意見をちゃんと言ったよ・・・僕らにだって自分の意見
くらい (ここも会場から笑い声が上がる箇所)・・・

最近僕はある会社でのコムソール団員の集会に行った・・・

最後にははどうなったかわかるかい?・・・フン・・・

あとは沈黙!・・・

それで、僕はここじゃなくてそこで孤立してると感じたのさ!

ここでは僕らは仲間同士になって生活してるのさ!

門のところではいつだって女性たちがおしゃべりしている・・・

うちにはいつも誰かがやって来る!・・・

水道集金人が・・・僕らの間ではこいつには聖ラースローのあだ名がついて
いる、壁から水が湧き出すまでのみで彫っていたからね・・・(訳注6 ハンガリー国王ラ
ースロー一世10)

46~1095 ナジヴァーラドの教会で祈っている間、飢えに苦しむ自軍のために魔
法で野牛としかを呼び寄せ、ヤリで石版をついて水をわきださせたという伝説がある)

それから同胞のガス集金人もやって来る・・・友情のガス・レシートを持っ
てくる・・・

支払わなくてはならんものをさ!

郵便屋が来る・・・いつも二度笛を吹く・・・こいつはとりたてるか、飲ん
でるかだ。

料金かポートワインを・・・

エレベーター技師は、この前すでに僕がやつに「君、ここの縦坑に引っ越し
てきたまえ」と言ったほど、何度もここに通ってきた・・・

それから地区のクラブには芸術家たちもやって来る・・・いささか高くとら
れるけどね!・・・僕は地区の集会で言ったのさ「そのうちヴァーモシ (訳注

7 ヴァーモシ・ヤーノシュ、1925~1997 ハンガリーの歌謡
界の大御所歌手で夫人のザーライ・マールタも同じく歌手だった) を呼ぼう、もしかしてザーライを連れ
てくるかも・・・

この前家に帰ると・・・あ、女房のおふくろさんが来てる・・・

自転車置き場にほうきがあるんで!

僕らはうちのベランダで話をしたよ・・・彼女曰く「ここらへんはなんてた
くさんのタクシーがいるの?・・・いつもこうなの?」・・・

僕は言う「とんでもない!二年前に呼んだら、今日になっても知らせた住所

をさがしてるんですよ！」

われわれとコツカ通りについては以上さ・・・ここには孤独も孤立もないんだとわかっただろう？・・・

その上！・・・

コツカ通りはこれ以後地区としてランクアップされるのさ・・・

最近ここに守護天使がやってきたんだ・・・ラーダイ・ミッチャンが・・・いつもパラス・アテネのもとへ盗まれた槍を取り返してあげている彼をご存知？

(訳注8 ラーダイ・ミハイ1942～、ハンガリーの映画・TV映画監督で、町の歴史を伝える重要な建造物の保護・保存を訴えるドキュメンタリー番組を作り続けている。代表作である「孫たちは目にすることすらないだろう～町を守護するパラス・アテネの手から次

第にその槍が盗まれていく～」というシリーズは、八十年代からずっと定期的に放送されている)

彼はわれわれに贈り物に新しい通り名の表札を持ってきてくれたんだ・・・

今日が除幕式だ！

ともかく古いやつを外して、新しいやつを賞賛しよう！

これが全て本当なら、孫たちだって追及するだろうね！

「便座通り七十七」(訳注9 原文では「砦のゴキブリ七十七」(パースチャチョーターニ七十七)で、客席は大爆笑。ペストの王城にある観光名所中の観光名所である「漁夫の砦」の遊歩道(パースチャシェータ

ーニ)のもじりか？三日間必死で頭をひねって「銀座通り」をもじって見たが、訳者には放送作家の才能皆無であることを思い知らされた)